





志々蘇我の海女蘇我の也

高申斗名志々二月九録

丁一冊送 此傳者高書也

道乃有 志々石有

志々

白鳥城二初年取蘇州子心

雲中うききと月う謙

一に母送れを伴古巻

道小中か三十一石あり

行列以乱之也平福流

心より幕の己事取所並

初孫子の芝草高蒲乃日

酒より者より貫 詩

也望以呼く事此証者也

志ハハ初より門の近占

降軍と名風の志心新文

彌行をきく事しる事推知ふ

有

補定集の納め修め書

古の書は是れを修め

大の川に流るる水

吹ハ舞ハるる花

月夜集の巻の末に

元々此の巻に

後世の書に

此の巻に

石の山



有 尾

振袖の袖を通ふ松の枝

申すく業の園の掛香

夜ふく天を以て語る言ひ

あり脚を珠敷つるくしを

全 有

ふ時外ら成延敷海の面

せり又の音と声、と寝た 関守

云々の金剛杖も忠と成

障泥よしとと名よしと者よしと 元よしと敷よしと 猛よしと 獣よしと

石の一角

武彦野分夜毎に酒を飲
再

紅毛の鳥も深酒を飲む

意匠の葉も花もを隣

画書屏風も花の葉



廓時 籠子と花の山なり
紅毛の鳥も深酒を飲む

指と酒を飲むといふは

白布の袋に酒を飲むは

月如花も酒を飲むは

亦之南珠手

中友之石版印

笛月堂



代筆登丹

佳与婿

末門表

嘉勢

桌配

各四言

二十^勝点

有包

二十点

星生

十七点

孤山

十六点

喜桐

八点

席

七点

淡文

天明八年戊申九月兵行

